

読む

昨年、あるプレゼンイベントで講演した時のタイトルは「読む」でした。

私の好きな日本語のことや、コミュニケーションについて話したのです。その「読む」の語意、愛用する新明解国語辞典（三省堂）で代表的な3つを引けば、声に出す、理解する、推測する、でしょうか。どれも生きていく中で重要なことです、仕事でも日常でもどんなときも。

声に出す 書かれている文字の音を声に出す：小学生の頃、授業の始まりに「起立・注目・礼！」と声を合わせました。「おはよう。おはよう。さあ、いこう。みんななかよし。さあ、いこう。」国語の時間は教科書（光村図書出版）を元気に朗読したものです。読むのが上手な子ども、そうでない子ども、恥ずかしがる子ども、発声が難しい子ども、今で言うダイバーシティ（多様性）を実感する最初だった気がします。

理解する 文字や図などを見て、そこにかかれていることを理解する：透過光（テレビやモニタ画面）か、反射光（印刷物やスクリーンの映画）か、心への届きかたに差があるでしょうか。メディア研究者のマクルーハンが紹介した実験結果では、反射光の方が理性的に分析される傾向にあるそうです。Kindle の専用リーダーは反射光で読む技術が使われています。デジタル教科書が採用されるようですが、私はモニタ画面ではなく紙を読む方がしっかり頭で考えられます。

推測する 現われている事柄から深い意味を察知したり将来の動きを推測したりする：人と会話する時、相手の変化をとらえながら進めていくものです。ウェブ会議は便利ですが、顔面の二次元画像を見ているだけですから、会議の議論が深まらないことも少なくありません。コロナ禍の頃、学術集会でもモニタ画面に向かって講演するので相手がそこにおらず、なかなか気持ちが乗ませんでした。リアルな会場の空気感が、滑舌に関係して良い講演につながります。

読み書きそろばん 私たちの学ぶべき三つの基本的能力ですが、最近では文章を書くにも AI に頼りがちです。そろばん（算盤）も見なくなり、鉛筆での筆算どころか、数字は電子的に計算されています。全国で活躍する地元の前商珠算部は応援しておりますが。では「読む」ことをデジタル化できるか。文字を記号として読み取り、優れた要約が作成されたとしても、それを考えて解釈するのは人間にしかできない能力だ

と思うのです。人間は考える葦である、パスカルの言葉に考えさせられます。

にんげんだもの 相田みつをさんの作品集から引用しました。人はつまずきます。自身を振り返れば、何度もつまずいてきたからこそ、うまくいかない人、失敗した人、そういう人たちの思いを読みとれる人間でありたいし、そういう自分に期待されたことには応えたいのです。イソップ寓話では「北風と太陽」が好きです。問題解決にあたり、人の思いや求めを読めることこそ、結果として良策につながると確信しております。今年は暑すぎましたから、ほど良い太陽の暖かさが待ち遠しいです。

【副院長兼皮膚科診療部長 岡田 克之】

